

## 札幌市における公立夜間中学の在り方について（第二、三回資料）

札幌市が設置する公立夜間中学の在り方について、以下の視点において、それぞれの立場の方々からご意見を頂戴したい。

### 1 札幌市が設置する公立夜間中学の目指す姿

#### 【案作成の背景】

- ・入学対象に想定される方は、様々な理由で学齢期において十分に学ぶことができず、その後も基礎的な学力を身に付ける機会を得られず、何らかの困難を抱えているものと想定される。
- ・アンケート結果には、入学対象となる各層の方から様々な教育ニーズが挙げられており、学習の基礎基本にかかわる内容から、日本語指導、社会常識の習得、人間関係作りまで幅広いニーズが求められている。

⇒ 以上を踏まえると、夜間中学においては、義務教育のセーフティネットとしての機能が求められることから、『安心して学べる場』である必要があるとともに、札幌市で設置する公立夜間中学校においては、『学習者の多様な教育ニーズに対応できる場』を目指す姿としていく必要があると考える。

### 2 上記目指す姿の実現に向けた学校づくりの視点

#### (1) 学習者の多様な教育ニーズに対応するための基本的な考え方（案）

#### 【案作成の背景】

- ・入学対象となる各層から入学希望の高かった項目として以下のニーズが挙げられており、幅広いニーズが求められている。
  - 高年齢層（戦後の混乱期等で義務教育を未修了の方を含む）
    - ① 小中学校の勉強をやり直したい
    - ② 社会常識を身に付けたい
    - ③ 読み書きを覚えたい
  - その他世代層（主に不登校等様々な理由で十分に通えなかった方）
    - ① 小中学校の勉強をやり直したい
    - ④ 高校等への進学や就職をしたい
    - ⑤ 人間関係作りがうまくなりたい
  - 外国籍層（主に本国も含めて、義務教育を修了していない方）
    - ⑥ 日本の文化や社会を理解したい
    - ⑦ 日本語が話せるようになりたい
    - ⑧ 日本語の読み書きをできるようになりたい

#### ア 学び直しの保障（①、③、⑧への対応）

それぞれの習熟の度合いや理解のスピードに対応するとともに、理解できる学習内容まで下げ、丁寧に時間をかけて対応する。習熟の度合いに対応するため、学習課題をスモールステップで実現できるよう、学習内容に小学校段階の学びを含めるなど、柔軟に設定。また、理解のスピードに対応するため、在籍可能な年限を3年以上に設定する。

#### イ 基礎・基本の定着（①、②、③、⑦、⑧への対応）

理解しやすい教材を開発し、知識を学ぶことに加え、知識を使いこなせるよう、知識を実社会と結びつけながら意味の理解を通じた知識の習得を目指す。また、ICT機器の活用など、様々な学習方法を実現しながら繰り返し学ぶことで知識の定着を促す。

#### ウ 社会性を育む学びの充実（②、⑤への対応）

実社会と結びつくような学習内容を積極的に取り入れた体験的な学習や、卒業後すぐに社会参加することなどを意識したSST（ソーシャル・スキル・トレーニング、社会生活技能訓練）の手法を用いた学習など、社会性を育む学びを充実させる。

#### エ 自己肯定感を高め、自信に結び付く支援（④、⑤への対応）

教師が生徒の可能性を信じ、生徒の伸びを積極的に認め、生徒とともに常に期待や希望を持ち続けられるよう励ます学習を推進。そのため、学習成果をきめ細かに確認し、成長を可視化することで、中学の学び直し内容に対する理解を進め、生徒の自信を高める学習を推進。

#### オ 日本語指導の導入（⑥、⑦、⑧への対応）

日本語に不安のある生徒が、日本語での学習に適應できるよう、日本語指導のカリキュラム開発に取り組み、系統的な日本語指導を導入。教科の学習はもちろん、特別活動における学校行事の実施など、日本の教育課程に準じた教育を実施。

(2) 安心して学べる体制づくりの基本的な考え方（案）

【案作成の背景】

・入学対象に想定される人は、様々な理由で学齢期において十分に学ぶことができず、その後も基礎的な学力を身に付ける機会を得られず、何らかの困難を抱えているものと想定される。

ア 少人数指導体制の充実

学習する教科等によっては、習熟度別にクラスを分けたり、一つのクラスで個別指導や少人数での指導を導入したりするなど、教科指導の教諭だけではなく、他の教諭等を加えた複数体制の実施について検討する。

イ 相談体制の充実

いつでも相談できるよう養護教諭の配置や、スクールカウンセラーを含めた相談指導体制を充実させるよう検討する。

ウ 学習支援体制の充実

少人数指導体制を充実させるとともに、学びのサポーターなどの学習ボランティアを活用するなど個別に丁寧に関わる体制づくりを検討する。

エ 生徒の身体的・金銭的負担への配慮

様々な事情を抱えた生徒の入学が想定されるため、教室移動に配慮するとともに、教材費などの経費を抑えるなど、生徒の負担軽減を検討する。

オ 日本語指導体制の充実

日本語指導の教材やICTを活用した学習を積極的に取り入れ、生徒の理解度に応じた複数の授業を実施するとともに、年間を通じて日本語を学ぶ授業を多くするなど、指導体制の工夫を検討する。また、通訳や補助者を適時活用するなどの支援体制について検討する。

カ 柔軟な入学体制

入学を希望する背景も様々な理由が想定されることから、入学時期についても4月のみに限らず、複数回の入学時期の設定や随時入学なども含めて検討するとともに、本人の社会生活や実務経験等を配慮して、2年生や3年生への入学や適切な進級の在り方についても検討する。

(3) その他必要な取組について

上記以外に、札幌市が設置する公立夜間中学に必要な取組についてのご意見があれば頂きたい。

MEMO